

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300935		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム 敬愛		
所在地	岡山県津山市東一宮22 - 10		
自己評価作成日	平成22年3月19日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370300935&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13 - 1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成22年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の居室や職員と利用者の人間関係など生活環境全般において「施設」というイメージをなくし、「家庭で普通に暮らしている」という状態に近づけたいと考え取り組んでいる。ホーム周辺に公園や小川等があり、四季折々の自然を感じながら散歩が楽しめる。
月1回の比較的遠方への外出は定例になっており、利用者は買物を自由に楽しみ、ホームに帰ると買った物を利用者同士で見せ合ったり、分け合ったり、一緒に食べたりと楽しい時を過ごしている。職員は各委員会に所属し、ミーティング(月1回全員参加)にて活動報告、提案等を行う。利用者が人生の最期を穏やかに安心して迎えられるようターミナルケアについても勉強を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関から職員の詰所に入ったら両ユニットのリビングルームの様子がガラス越しに見える。このホームでは一日の生活に決まりはない。何かしたい事が見つかれば、それぞれが自分を生かしてくれる事が一番良いと考えている。このホームには18人の利用者がいる。そして21人の職員がいるが、職員は利用者を陰で見守り、寄り添い、気持ちの良いケアを提供している。他にももう一匹盲導犬を卒業した賢くて優しいオレゴン君が利用者の中にいる。職員は利用者には優しく愛情を持って接するが、職員自身は工夫と努力でケアの質の向上をしている。家族ともよく話し合っている。社長は「相手の眼に注目し、物言への関心を高めて、それを自分だったらどう思うか、自分がして貰ったらどう思うか等常に考えを広げていく」と言う。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念である「やさしい心を大切に」を職員は共有しており、日々の生活の中でも意識し行動している。	“やさしい心を大切に”ホームの理念は事務所に、職員達で話し合っ決めて各ユニットの理念“ありふれた日々を大切に”“普通の暮らし、地域と共に”はそれぞれのホームに掲示し実践に努めている。自分達で作成した理念なのでよく浸透している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には散歩等で地域の方と挨拶したり、地域の行事がある時は、参加出来る入居者や職員が顔をのぞかせている。	町内会に加入して地域の清掃活動に参加し、回覧板も回って来て祭りの神輿もホームに立ち寄る等、地域の一員としての付き合いが出来ている。ホームの祭りには近所の人に来て、音楽演奏や編み物教室のボランティア訪問、小学校での演奏会や盆踊り・とんど等の参加も定着している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議においては認知症への理解を深めてもらっているが、現状では地域の人々まで理解を広めていく行動にまでは至っていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームでの取り組みや活動報告を行っている。会議で出た意見などは毎月行っているミーティングで職員全員に報告し話し合いの場を設け、案を出し合っている。	複数の民生委員や愛育委員・5町内の町内会長・利用者・家族・市町村担当者等が出席して、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。参加者から地域行事や慰問ボランティアの紹介がある等、会議開催効果も挙がっている。	ホームの行事と同時開催したり、試食会を行う等、有意義な会議を実施している。今後は何か役に立つ事があると参加者が楽しみに来る様な企画を検討し、近所の人にも呼び掛けてみてはどうだろう。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	他所と比較はできないが、当事業所としては市担当者に分からないことを聞いたり、書類の指導をしていただいたり、協力をもらっている。	何かあればその都度市の担当者に相談して、指導・助言を受けている。福祉健康部高齢介護課の職員は毎回運営推進会議に出席しているので、ホームの実情を把握し、より良いサービス提供を目指して協働出来ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないケアに理解があり、日々の生活の中でも入居者が外に出たい時は一緒に付き添い、少しでも不安を取り除くよう心掛けている。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、研修会にも参加して勉強してきた内容を職員ミーティングで発表して全職員に伝え、日々の介護の中での気付きも話し合っている。開設時より玄関施錠なしを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で介護上のストレスや問題点を話し合い、解決策や軽減策を考え、虐待に結びつかないように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、参加できない職員には報告書等で自主的に理解してもらっている。必要な入居者には管理者が対応している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族に疑問点がないか確認しながら説明している。看取りの方針等はデリケートな部分でもあるので、家族、入居者の納得がゆくまで答えを急がせない。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を主とし、家族や入居者の要望を発する機会を設けている。出された意見等はミーティングで別に話し合う機会を作り、改善策を考える。	毎月ホームのたよりや近況報告に写真を添えた個別の便りを送付して様子を伝え、面会時には話し合い、必要に応じて電話でも家族と相談している。運営推進会議にも家族の出席があるので、公の発言の場も提供出来ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでは職員全員が何か思っている事を一言でも発する場をつくっている。また、管理者は職員の意見を常に聞く姿勢を持ち、提案を妨げたりしない努力をしている。	毎月定期的に行っている職員会議には、余程の事がない限り休みの職員も出て来て全員参加で活発に意見交換出来ている。介護職経験を持つ代表者は現場をよく理解し、職員の声を運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に自己チェック表を記入してもらい、自己評価した上に代表者も評価をし、給与や賞与に反映するようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけどの職員にも研修行く機会を設け、得た知識を報告書にし、ミーティングや伝達講習会を開き、全職員に学習してもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症協会や近隣地域のグループホーム研修に参加し、他事業所の取り組みを学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人と会い、本人からの要望は聞いておき、出来る限り不安を取り除いた状態でサービスの利用をして頂きたいと思っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人からの要望とはまた異なった家族の思いもあり、ホームで出来ることを話し、お互いに納得できるサービス提供を見つけていきたいと思っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前にその他のサービスが必要と判断すれば、他機関の紹介やアドバイスも行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事は奪わず自分で行っていたき、さり気ないサポートを職員は心掛けています。職員は入居者からの知恵を学ばせてもらう姿勢で接している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族には手紙・電話報告等で日頃の暮らしぶりを知らせ、離れていても近くにいるように感じてもらいたいと思っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者によっては行きつけの美容院や墓参りに行かれたりもするが、全ての入居者に当てはまるとまでは言い難い。事業所内だけでは無理な場合もあるので、家族や関係者に本人の希望を伝えるようにしている。	近隣出身の利用者が多いので、買物に行く知り合いから声を掛けられ、ここでなければお気に入りの美容院へ行く人もいます。季節の料理、おはぎや柏餅作りを皆で楽しむ等、生活の中で昔を懐かしむ支援も行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での関わりが難しい場合等は、職員が仲立ちし、孤立させない努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、その後の本人の様子等の報告を得られる場合、現状を把握するよう心掛けてはいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者全ての思いに応えられるわけではないが、本人の希望を聞き、ホームで出来ることを職員間で話し合い、提供できる事を伝え、実行している。	「トイレ行かんでええ？」と聞かれ「まだ行きたくない」と断り「テレビつけてくれる？」して欲しい事は職員に言う等、比較的軽度の利用者が多いので、思った事は遠慮せずはっきり発言していた。	利用者の心の中を察知するためにはコミュニケーションの中から出てくる「言葉」や「表情」をそのままの表現で記録に残しておく。その言葉等を職員の感性で更に深めていき、本人の希望や意向として捉える習慣をつけられれば良いと思う。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴全てをサービス提供前の聞き取りでは行えないため、入所してからも随時家族や関係者からの情報を得よう働きかけている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日でも気分などにより過ごし方は変わるので、職員は一人ひとりのその日の様子を把握し対応している。特に変わったことは記録にも残し、申し送りで伝え、職員全員で情報の共有を図っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活で本人が出来ること、望んでいることを組み込んだ介護計画になるよう、職員達はカンファレンスを行い意見を出し合っている。	入所前に本人・家族からよく話を聞き、入所までに計画作成担当者がプランを作成し、入所後全職員で様子を見ながら検証し、必要に応じてプランを変更している。毎日モニタリングしてプランと日常の記録を連動させる様子を工夫していた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いたことは記録に残すよう職員に義務づけている。個別記録には情報が共有できるように食事量や水分量、排泄量など記入する欄もある。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、家族が無理な時はホームで出来ることを代わりに行ったりしてお互いに協力し合えるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支える地域資源の活用までは至っていないケースもある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診してもらっている。他にも、いくつかの協力病院があり密に関係を結び、適切な医療を受けていただいている。	何かあれば対応して貰えるホームの協力医を確保し月2回の往診で健康状態をチェックしている。それ以外の病院受診は家族にお願いしているが、緊急時や家族の都合がつかぬ場合はホームでも支援しているので、それぞれの主治医との関係も構築出来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護師がいない時にも様子がいつもと違う入居者には注意を払い、微細な変化でも看護師に連絡し判断を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院する際には情報提供の書類を作成し、速やかに情報交換が行えるようにしている。また、できるだけお見舞いにも行く機会をつくっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意思を尊重し、医師、看護師、職員がホームで出来ることを確認し合いながら随時、説明を行い終末期の援助を行っている。	本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく、家族や主治医の協力も得られるならば、職員ともよく相談して、出来る限りの支援をしたいと考えている。看護師資格保持者の職員を配置して対応出来る体制をとっており、ターミナル支援の経験もある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備しており、全職員が目を通せるようにしている。職員は年1回消防署より緊急対応の指導を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団、町内会長と連絡を取れるよう緊急連絡網を作成している。また、避難訓練を行い、災害に対する意識付けも行っている。	緊急時のマニュアルや連絡網を作成し、利用者も参加して、消防署の協力を得て昼と夜を想定した避難訓練を実施した。運営推進会議でも災害対策について話し合い、秋にはスプリンクラー設置予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者の方々が人生の大先輩であることを意識し、まずは本人の意思を確認してから行動している。	「ももちゃん行ってくるけん」トイレに行く時、ごく自然に声を掛け「帰ったで」と犬の縫いぐるみを抱いて昼寝する人がいた。料理・縫い物・編み物・草取り等、その人の得意を活かし、その人らしさに配慮した支援も出来ていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は本人の希望をまず確かめる。本人が乗り気でなければ無理強いはいしない。コミュニケーションが取りにくい方においてもバックグラウンド等を理解し、できるだけ本人が望むであろう選択を行う。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは大体決まっているが、強制的ではなく、本人のペースも大切にするように心掛けてはいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服においても本人に選択してもらって着替えたり、女性の方には化粧やマニュアル等も楽しんでもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては入居者の方が年長者な為詳しいことも多く、職員は調理にアドバイスをもらって作ることが多い。一緒に準備することが楽しみの一つになっている方もいる。	介助や見守りの必要な人の傍には職員が付き、その人に合わせて量を加減したり小さく切る等、食べ易く工夫した食事を皆で談笑しながら食べていた。利用者達は食欲旺盛で、美味しい食事は皆の楽しみになっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は職員皆が共有できるよう記録に残している。ただ、栄養バランス面からは職員は有識者ではない為、傾りがある場面もあると思われる。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全ての方に口腔ケアをお願いし、出来ない方や入れ歯洗浄は職員が手伝う。しかし、強制的ではなく、やりたくない時があってもいいという感じで、1日のトータルできれいにできればと考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用を減らすため排泄チェック表を作成し、その人のパターンをつかみトイレ誘導を試みている。	各自の排泄パターンを把握して、タイミングをみて声を掛け、さり気なくトイレ誘導出来ていた。ホームに来た時はハビリパンツとパット使用だった人が、日中は布パンツになる等、改善事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘への対応は難しく、入居者皆が自然な排便が出来ているとは言い難い。必要に応じて下剤等を使用しているが、排便の様子を見て加減している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を強制的に行うことはしないが、入居者の好きな時間帯に入れるとは限らない。	朝から風呂を準備して、本人の希望に合わせて何時でも入浴出来る体制にしている。殆どの人が毎日入浴しているが、体調に問題なければ2日に一度は入浴するよう誘っている。風呂好きの人には嬉しいホームだ。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	顔色や時にはバイタルチェックもしながら時間に関わらず休息してもらっている。眠前薬が処方されている方においても、医師、薬剤師と相談しながら量を調節してもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明は全職員が目を通せるよう個人ファイルにとじてあり、いつでも最新の情報が得られるようにしてある。臨時薬が出た場合、記録にも残し、申し送り確実に伝達する。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性は家事を好んでされる方が多く場を提供しやすいが、男性入居者が少ない点や職員が入居者の趣味を熟知していなかったり、時に難しく感じることもある		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望によって散歩、買物に出掛けることができる。月1回の外出の機会を設け、遠出を楽しみに生きた居場所の話をしたり、計画を出来るだけ入居者と共に立てている。	恵まれた立地条件を活かした日々の散歩や買い物以外に、初詣・花見・紅葉狩り等、季節の行楽にも出掛けている。近隣の道の駅や山の駅等へのドライブ・外食・イチゴ狩りや足湯等、楽しみながらの外出支援を積極的に実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで金銭管理を行っているが、いつでも希望する時に使えるよう本人に話している。しかし、お金がない、使えないと入居者から不満の声があがる時もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者はいつでも自由に電話をかけることができる。手紙のやり取りも同様で、希望すれば職員が代筆も行う。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースは明るく清潔を心掛けている。ただ建物自体が現代的な為、昔を懐古できるような生活感は感じられない。季節感を味わえるように雛人形や門松など時期によって飾り付けている。	写真・貼り絵共同作品・塗り絵等を掲示し、雛人形や日本人形・天皇家のカレンダー等を飾り、親しみ易い雰囲気が漂っている。長ソファで気持ち良さそうに昼寝する人や壁沿いのソファに仲良し同志で座ってお喋りを楽しむ人等、それぞれお気に入りの居場所がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が食堂兼居間しかなく狭い造りになっているが、ソファを2ヶ所分けて設置したり中庭があったり、自由に過ごしてもらえるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には使い慣れた物を持ってきていただくよう話はするが、なかなか慣れ親しんだ物まで持ち込んでいただけない。努力が必要などところである。	「戦死してしもうた」夫の写真を置く人や、お気に入りの縫いぐるみやマスコット・お守りを飾る人、ダンス等を持ち込む人も居て、それぞれの人らしい居室になっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活が送れるよう転倒などの危険を最小限にするため、整理整頓を心掛けている。		